

二宮仕法の実践

歴史の散歩道

凶作により東北地方を中心に全国で多くの人が餓死した天明の大飢饉。相馬中村藩は幕府から5千両を借り入れ、領民への食料給付や養育料支給、移民の受け入れなどに取り組みました。現在の飯館村が位置する山中郷の被害はより深刻で、年貢米が数年にわたり免除されています。藩は儉約令を出し、備蓄にも力を入れました。備えが功を奏し、後の天保の大飢饉では藩内に1人の餓死者も出さなかったと伝わります。しかし備蓄が底をつき財政はひっ迫。藩はさらなる打開策を求めて弘化2年(1845年)、藩政に二宮仕法(御仕法)を取り入れました。二宮仕法は、二宮尊徳が主導した復興政策です。二宮尊徳自身が相馬地方を訪れることはありませんでしたが、藩士で二宮尊徳の

弟子であった富田高慶が指導にあたりました。二宮仕法の実践は、城下に近い2村から始まり、投票による善行表彰、困窮者の救済、農業の助成、開墾の奨励、堤・用水堀の整備、植林など多岐にわたる事業を行うことで、農民の意欲を育て生産力を向上させました。二宮仕法は明治4年(1871年)の廃止まで27年間、藩内226村の内101村で実施され、55村で完了しました。飯館村では完了には至らなかったものの草野村で二宮仕法を実施した記録が残っています。また当時普請されたとみられる堤やため池が村内に広く存在します。村は、二宮尊徳にゆかりのある市町村が集う「報徳サミット」にも毎年参加をしています。



「報徳サミット」の開催地はゆかりの市町村の回り番。今年は11月に静岡県御殿場市で行われました。



村には江戸時代に築かれた堤が17(中期4、後期13)あります。写真は外内の堤。改修された現在の姿。

2024年もたくさんの方に利用いただけるよう生涯学習事業を計画していきますので、図書への貸し出しはもちろん、生涯学習事業にもぜひご参加ください。

認知症という言葉はよく耳にしますが、認知症の方への接し方について聞かれると不安になる方もいるはず。この本は、認知症の方の症状(軽度〜重度)と90の困りごとへのヒントが書かれています。ぜひ手に取って認知症への理解を深めましょう。



「認知症の人の困りごと解決ブック」
稲田秀樹 著
中央法規 発行

おすすめ図書を紹介します

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

いいってイノサル通信

イノシシの痕跡 増えた?減った?

～避難12市町村イノシシ痕跡調査結果～

私たち支援員は、2019年から毎年秋に人の生活圏周辺でイノシシ痕跡調査を行っています。今回は、その調査結果をご報告します。

目的 痕跡を調べることで、人の生活圏周辺での出没状況や遭遇等のリスクを把握する。

方法 住宅地や農地周辺を歩き、道路沿いにあるイノシシの痕跡を記録する。調査距離100mあたりの痕跡の数を計算し、場所や年で、増減を比べる。

※記録するのは調査した道路から幅3mのみで、道路から離れた農地等にある痕跡は記録していません。

記録する痕跡の例



掘り返し



足跡



糞



こすり跡

2023年の調査結果

今年は、飯館村内を約72.5km調査し、467個の痕跡を記録しました。結果を地図で見ると、村の中央部でいくつか痕跡の多い場所がありました。一方、北側では比較的少なかったです。また、避難指示が解除されて間もない長泥地区には、多くの痕跡がありました。

全体と村での変化

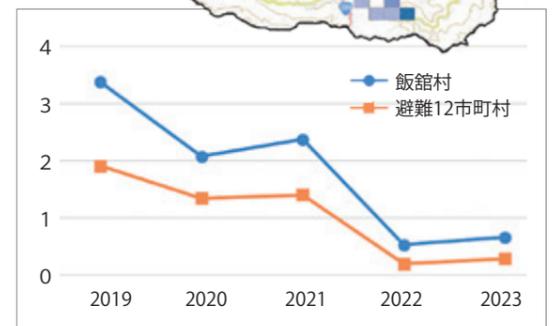
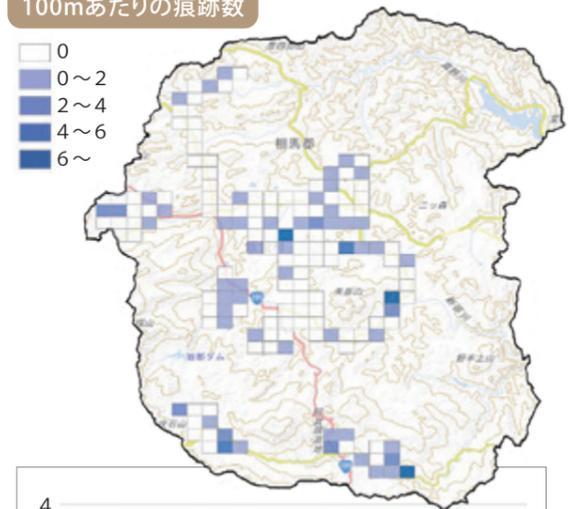
避難12市町村全体と飯館村では、同じような傾向で変化していました。調査を始めた2019年は、全体でも飯館村でも、最も多く、そこから2022年までは減少しています。その原因ははっきり分かっていませんが、イノシシやブタがかかる伝染病である豚熱が影響していると言われています。2019年と2022年を比較すると全体では、1/10程度になっています。

ですが、2022年と2023年を比較すると、全体でも飯館村でも、少し増加しています。おそらく、イノシシの頭数が回復し、出没が増えてきてしまったと考えられます。

このような調査により、非常に大まかではありますが、イノシシの状況を推測できます。今後も支援員は、村と協力し、イノシシによる被害が増えないよう対策していきたいと思っています。

100mあたりの痕跡数

0
0~2
2~4
4~6
6~



イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する鉄谷さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

鉄谷 龍之 さん

平成31年4月から同支援員。令和3年から飯館村の鳥獣対策に携わり、今年度から村の主担当。専門は野生動物管理・鳥獣被害防除。